

## 内 容

### \* 情報共有セミナー詳細報告(2)

- エスポアール出雲クリニックの活動報告  
～エスポアールファーム第2の事業～

形部 周平

### \* 情報共有セミナー詳細報告(2)

事務局

表題の第2回目としてエスポアール出雲クリニックの報告内容を掲載する予定でしたが、過去本紙にてご報告いただいておりますので、現在進行中の最新情報をご提供いただけることになりました。

しかしこの場合、今までの活動の部分が見えにくくなってしまいますので本紙新年号でご報告いただいた内容から活動に関する部分を抜粋して先ず掲載させて頂き、次に最新のご報告を掲載させて頂きます。

#### ○ 継続は力なり(新年号掲載分の抜粋)

エスポアール出雲クリニック・エスポアールファーム 形部 周平

昨年1月に2万菌床の栽培をスタートしましたが、当初栽培した菌床は1～6ヵ月をかけて山なりに発生(収穫)量が推移するタイプであったにもかかわらず、初回の発生刺激から暴走機関車のように全菌床の椎茸発生が止まらず、1週間で1～1.5tもの収穫ペースが約ひと月続きました。2坪ある冷蔵庫は、2日で満タンになるほどで、“休み”もなく、週に1回は少し長めの昼寝ができる程度の時間をとるのが精いっぱいでした。ただ、当院の『就B事業所だんだん』やお隣の『就B事業所(同じく菌床椎茸栽培を作業としている)』には出荷作業(軸切、選別、袋詰め)を中心に大変お世話になり、何とかこの窮地を脱する(細かい事は省略しますが、菌床の管理を含めあれやこれやと色々取り組みました)ことができたのでした。

一旦は収まった暴走機関車も、再び発生刺激を与えると何度も同じことを繰り返したので、発生刺激をする菌床数を減らし、刺激の強さや時間を調整する等して、1日に出荷できる発生量をコントロールしました。一見、大豊作で良いではないか、と思われるかもしれませんが、菌床の椎茸発生面はせいぜい横10cm×縦20cmの狭さですから、その面に20～30本の椎茸が生えてしまえば、当然すし詰め状態になって、小さくて変形した椎茸しかできず、品質(丸くて肉厚のある)は落ち商品単価も下がってしまうのです。実際に、半期の実績を見ますと、予定していた総収穫量よりも1t以上多く採れていたのですが、売り上げは予定していた金額よりも低くなっていました。こうした経験も新米農家の通る道なのでしょうが、半期を過ぎた頃からはひとまずある程度のコントロールが可能になり、働き方も徐々に良くなってきたと感じています。



押し寄せる数万もの椎茸の大群

○ エスポアール出雲クリニックの活動報告  
～エスポアールファーム第2の事業～  
形部 周平

エスポアールファームの活動は、これまでも RPJNews でご報告してまいりましたが、新年号にも書かせていただいたように、ファーム第2の事業についても少しお披露目したいと思います。

もともとエスポアールファームは、多機能型精神科診療所であるエスポアール出雲クリニックを母体とした『障がいの有無に関係なく誰もが働きやすい職場づくり』の目的達成のために設立したソーシャルビジネスの方針を持った会社です。

現在は、菌床椎茸栽培を中心とした会社経営をしていますが、農業資材、菌床原材料、電気代、ガソリン代等の価格高騰の波が押し寄せています。この物価高に一人の生活者としても辟易していますが、いつまで続くのか、また、以前のように戻っていくのかと懸念は絶えません。ひとまず椎茸栽培については、昨年秋頃に菌種を替えたことが大いに功を奏し、収益の安定、作業の組み立てもスムーズになり、身体的な負担もだいぶ軽減され、全体的な流れとして見通しが明るくなりました。

さて、散々勿体付けておりましたが、第2の事業といいますのは、ずばり廃菌床を再利用した循環型農業の構築です。何しろ年間に 35,000～40,000 菌床を廃棄しますから、これらを再利用することができれば、目的達成のための、会社経営としてのアドバンテージにもなると考えました。

今、私たちが廃菌床を再利用して取り組み始めたことは、カブトムシ(卵から成虫になるまで)の飼育です。カブトムシはカブトムシでも【ヘラクレスオオカブト】です。『また、エスポアールは…』と(良い意味でも悪い意味でも)何となく聞こえてきそうですが、秋田県等の菌床を使ったキノコ類の産地などでは既に事業としてモデル化されています。当院の B 型で菌床椎茸栽培を始めた頃から廃菌床の使い道を模索し続けていたスタッフが、この黒衣の秘宝を見つけ出し、先方と交渉を重ねて、山陰では初めて私たちと業務提携していただくことになりました。

しかしながら本事業は、飼育中の盗難防止や種の保存(在来種との交配を防ぐ)の観点から飼育場所を特定されない等、秘匿性が高く実はこれ以上は紙面で語れな



↑ハウス全景

↓箱入り娘たち



ヘラクレスオオカブトの飼育ケース



廃菌床を再利用した飼育マット

いのです。今現在では、その幼虫もこぶし大ほどまでに成長し、可愛くもあり、気持ち悪くもありますが、(写真は差し控えます)やがて羽化する初めて見るヘラレスオオカブトに胸が高鳴り続けています。

現段階では、ヘラレスオオカブトのブリーダーとして安定した生産技術の向上や見栄えのよさを探求する等に注力していますが、これに加えて、カブト虫の糞(幼虫期でもパチンコ玉くらいあるのですが)は窒素やリン酸などを多く含み、土と混ぜれば堆肥として再利用が可能です。また、話は相当飛躍しますが、やがて訪れるタンパク質危機の救世主として近年では昆虫食が注目されており、そうした産業にも参画するチャンスがあるかもしれません。

兎にも角にも夢は膨らむばかりですが、焦らず一歩ずつ進めていきます。私たちの目標は常に一つ、『障がいの有無に関係なく誰もが働きやすい職場づくり』です。その人らしい働き方がきる楽しい職場づくりに向けて努力あるのみです。

いつ頃になるか分かりませんが、このブリーダー産業が成功した暁には、出雲ドームを貸し切って、いろいろな子供や大人も一緒になって楽しめるイベントを開催することが目標です。その頃には、“バナナ”から始まったクラウドファンディングで繋がった全国の方たちや“バナナ”が頓挫したにも関わらず、返金を受けずに寄付をしていただいた方々にもご案内させていただければと考えています。

以上

※ 椎茸栽培の新しい写真を頂きましたので掲載します。



菌床搬入の様子



菌床の入れ替え



良い椎茸が育ちました



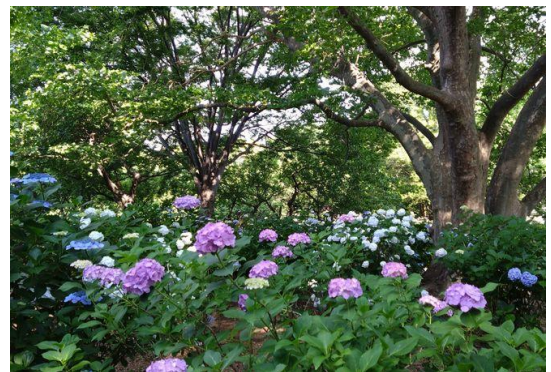
椎茸の発生刺激作業



#### －編集後記－

文中にも記載しましたが今月はセミナー報告という名のもと、最新の活動状況を載せさせていただきました。バナナから始まり展開の速さ柔軟な考え方、目標を一点に定めた揺ぎ無い方針には頭が下がる思いです。秘匿性の高い活動の報告を頂けたことは大変うれしく思っています。これをお読みいただいた同様の活動をされている皆様にお願ひです。「エスポアールの活動を見学して、同様の活動を展開しよう」とは絶対に考えないでください。夫々の組織で悩み・試行錯誤して、独自のチャレンジを目指してください。宜しくお願ひします。

話は変わりますが、関東は6月21日に梅雨入りの発表が有りました。平年より14日遅いです。そして月末に向け雨となりましたが、7月1日からは晴れの予報が出ており、梅雨明け？との憶測も出ており、夏場の水不足も心配になってきます。これも異常気象のせいでしょうか？(m.niki)



特定非営利活動法人 精神保健福祉交流促進協会